

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500377		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム新賀 きのこのき		
所在地	岡山県笠岡市新賀3220-28		
自己評価作成日	平成23年3月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・本人、家族の思いを大切に、その人らしく生活をして頂いている。(生活歴をしっかりと把握し、生かしている。)</p> <p>・ご家族との信頼関係を大切にしている。</p> <p>・「第二の家」として選んで良かったと思って頂けるよう、支援をしている。</p> <p>・新人の育成</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	現在リンク先停止中
----------	---------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	堀世23年3月31日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>和風の落ち着いたたたずまいで、かなり高齢の利用者たちが静かに暮らしているホームである。新しく入居した女性たちが仲良くおしゃべりをして、元気な新しい雰囲気作りをしているが、彼女たちも90歳を超えている。穏やかに静かに時が流れる中、職員たちの重度化に対応した細やかな支援が行われている。利用者たちは暮らしのなかで、できることを少しでも自分で取組み、機能維持のリハビリに努めている。立地により今までであった運営推進会議や地域交流には法人内のホームで協力して取組み、夏祭りの実施などの成果を上げている。また、ホーム独自に家族会を開き、家族との連携を図っている。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今までの生活を崩すことなく、その方の気持ちを理解しながら個人の価値観を尊重するケアを提供いたします。」という理念の下、一人一人の生活を大切に考えている。また、その為のミーティングも行っている。	理念はリビングルームに掲げられ、いつも目につく状態になっている。また、「今までの生活を崩さず、価値観を尊重する…」といった理念の実現のために最初に本人、家族から生活歴を聞き出し、人生歴にまとめている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が悪く難しいが、運営推進会議を通じ地域のサロンへ参加させてもらっているが、まだまだ充分ではない。今後の課題である。	工業団地に隣接しており、地元との関わりが軽薄になりがちであったが、散歩の人に気軽に声掛けをしたり、地元保育園との交流等を企画していく予定にしている。他事業所との交流会や意見交換会も企画予定である。	認知症ケアの専門家としての役割を地域の中で果たしていくことや、地域の一員として位置づけられるよう今後も努力をしてほしい。保育園や小中学校との交流も期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い話し合っているが、まだこれからである。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議、サロンで話し合っているが、生かしきれていない。	運営推進会議がなかなか生かしきれておらず、課題でもあったが、2か月に1度の開催は行われており、笠岡市、民生委員、家族の参加がある。きのこグループ内のグループホームと共同開催で行われている。	少しずつ、取り組みも前進しており、形式的運営推進会議から、取り組みの報告や、新たな提言が生まれてくるような積極的運営推進会議になるよう今後期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、また必要時には連絡を取っている。	運営推進会議はもちろん、日常的にも必要時はこまめに連絡を取り、市と連携が取れるよう心掛けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、皆で話し合っている。身体拘束は行っていない。	以前は身体拘束の委員会もあったが、現在は委員会はないが、身体拘束自体が行われておらず、その必要性を巡って論議になるような利用者もいない。玄関もオープンになっており、帰宅願望が強い方には見守りに対応している。服薬に頼らないケアを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのコミュニケーションを大切にしている。今後も意見、情報交換をしっかりとっていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	きちんと理解出来ていないのが現状。これから勉強をしていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、相談時、入居時にきちんと伝え、家族からの相談も受けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との相談も密に行えている。受けた相談については、皆で話し合っている。	意見箱を玄関に設置しているが、意見箱への意見は殆どなく、今後はアンケート等を検討している。個別の相談や電話はすべて相談表に記録し、それに対する対応も記載している。家族会で話を聞く機会がある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い、スタッフの思いを聞き反映させている。	きのこグループ全体でのリーダー会議があり、ホームでは月に1度のミーティングを全員参加で開催している。ミーティングでは意見交換や研修報告、リーダー会議の報告を行い、皆の意見が反映できるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとしっかり話が出来る時間を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内での勉強会に参加したり、外部研修にも参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加したり、他グループホームとの交流も少しずつ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、特に入居者、家族の方としっかり話をし、少しでも安心して頂けるよう心掛けています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の想いを伝えてもらえるようしっかり話をしている。 面会をお願いもしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いがなかなか聞きにくい為、家族の方の思い聞きプランに反映させている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に心掛け、共に生活をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来て頂きやすい雰囲気作りをし、来られた時にはしっかり話をし相互理解を深めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を作成している。 家族の方との連絡も大切にしている。	高齢化のため、慣れ親しんだ場所へのお出かけや人とのつながりが持ちにくくなっているが、以前入居していたケアハウスの方が訪れたり、以前お花見に行かれていた場所にまた行きたいとの希望を叶えたりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	空間作りを大切にしている。 一緒に過ごす時間、一人で過ごす時間、空間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも、いつでも相談して下さいとお伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を大切にし、活用している。しっかりコミュニケーションをとり、不安を取り除くようにしている。	最初に生活歴を本人や家族から聞き取り、生活スタイルや意向を把握するように努めており、日々の会話の中からも思いを引き出すようにしている。自ら積極的に意向を表現されることは少ないが、様々な場面から汲取れるよう心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の話聞き、思いや希望の把握をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しっかり関わり、小さなこともきちんと記録し、変化に気付くようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活、本人や家族の意見を基にカンファレンスをし、介護計画を作成している。	毎月のミーティングで話し合いを行っており、1年に1回、モニタリング、カンファレンス、ケアプラン作成が行われている。状態変化があるときは必要に応じ行われているとのことである。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に表情、言葉、しぐさなど、本人のことがよく分かるよう記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の言葉や家族の思いをしっかりと聞き、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域へ出られていないのが現状。運営推進会議でいろいろな方法を検討していきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり、かかりつけ医がいる方には受診を支援している。	敷地内に系列病院があり、緊急時は併設病院で対応が行われている。今まで関わりの病院があるときは、本人、家族の意向を聞き、かかりつけ医受診を家族に対応してもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報をしっかり伝え、コミュニケーションを取っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院中、退院時に、家族、病院関係者との話し合いの場をしっかりと持っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、入居時に出来ることを伝えた上で家族の思いも聞き、必要に応じてその都度話し合いをしている。	現在まで看取りはない。入居当初に重度化や終末期に関し、以前からの本人意思や家族の希望を聞き、事業所のできることで、できないことの説明を行っている。ホームで最後の看取りまでの希望者も現時点ではおられず、検討課題になっていない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小さな変化に気付けるようにしっかりと関わっている。 応急手当など今後も勉強し、身に付けていく。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。 また、避難マニュアルも作成している。	スプリンクラーも設置されており、夜間、日中を想定した避難訓練が行われている。同敷地内の他施設とも同日に出火場所をそれぞれに設定し、行っている。緊急時、災害時には法人内での支援が得られ心強い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声の大きさ、トーンなど、十分に気を付けている。 個人情報の扱いに配慮している。	リビングルームと居室が全く独立しており、それぞれのプライバシーは非常に守られている。トイレも居室にあり、トイレ誘導や声掛けも耳元でさりげなく行われており、一人一人の尊厳が守られている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の中や、傍で一緒に居ることで思いに気付いたり、また家族の方の話を聞き、思いに応えられるよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によりすぐに対応出来ないこともあるが、なるべく希望、思いに添えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を家族にお願いしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で話をしながら決めたり、旬や行事も大切にしたいと思っている。手伝いは自主的にして下さる時に一緒にしている。	誤嚥防止も考慮して、食事は静かにゆっくり食べるように心がけている。下膳を自ら工夫して手伝う人もある。全介助の人の食事を先に済ませた後、職員と一緒に食事する。食後は団樂の時間をとる。外食も取り入れる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に変化のある方は、しっかりと記録に残している。 食事は皆一緒だが、量や形態を変える工夫をしている。 水分には気を付けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自分で行えるよう声掛けや必要な介助を行っている。 口腔ケア用品は、それぞれに適したものを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	小さなサインに気付きながら、さりげない声掛けを心掛け、介助をしている。	全介助の人の排泄は記録し、その他の人は様子の観察等で排泄要求を察知し、オシメの2名を除いては皆トイレでの排泄を促している。便秘に対してはきな粉牛乳やオリゴ糖等、できるだけ食事で改善を促している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、おやつ等工夫し、運動や腹部マッサージで自然排便が行えるよう促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日時は決めず、一人一人に合わせている。介助者の人数も、安全で安心して入浴してもらえるよう、その人に合わせている。	毎日入浴できるが、大体2日に1回入浴している。時間や順番も特に決めてはならず、昼から本人の希望に合わせて入浴をしてもらっている。リフトもあるが、立位困難な利用者に対しては二人介助で一般浴で対応。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活ペースに合わせ、少しでも快眠出来るよう、清潔保持に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や副作用についてきちんと理解が出来ているかは不安がある。これからもきちんと理解をしていくよう心掛けていく。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に散歩に行ったり、家族の協力も得ている。 気の合う方同士との時間も大切にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なるべく応えたいと努力はしているが、出来ていないこともある。 これからの課題である。	散歩や食材の買い物等、日常の外出のほか、ドライブや花見・外食などに出かける。利用者の高齢化により、体調を考慮し、現在は少人数で行きたいところに出かけている。軽度の人が増えたので、家族参加の旅行も取組めそうである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在自己管理出来る方がいないので、全て施設で管理している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望のある時にはしており、家族の方にもお願いをしている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>音、光の加減、温度など気を付け、快適に生活出来るよう工夫をしている。</p> <p>入居者の作品もリビングへ飾っている。</p>	<p>居室ゾーンから独立してリビングルームがあり、利用者にとっては1日の生活にメリハリが出来ている。椅子に腰かけて入れる炬燵や和室があり、花や調度品も工夫され、柔らかな採光で、居心地のいい静かな空間である。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人でゆっくり過ごしたり、気の合う方と過ごせる空間作りを、家具等の配置を工夫し考えている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>少しでも穏やかに安心して生活して頂けるように、居室のインテリア、家具は使っていたものを持ってきてもらうようお願いしている。</p>	<p>家具類はすべて持ち込みの為、好みの物や使い慣れたものが設置されている。各居室はフローリングに畳が埋め込まれており、障子のはめ込まれ、落ち着いた和風モダンな居室となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>インテリアや家具の配置を工夫し、転倒防止に気を付けている。</p> <p>居室には表札を掛けている。</p>		